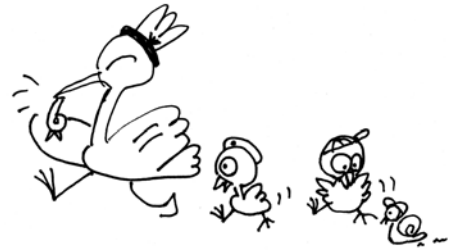




男体

第32号
平成16年5月1日発行

トートラインヒッチをきわめる

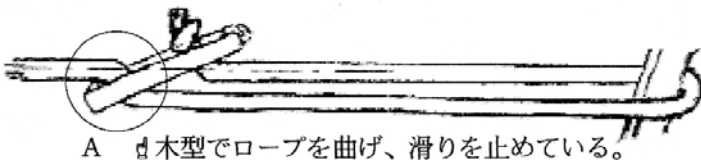


テントの張り綱や、物干しを作るときに欠かせないロープの結び方である「トートラインヒッチ」。ロープ結びのターゲットバッジにもあるように、スカウト活動において最も多く使う結び方のひとつでもある。
しかし、チョット待て！ もしかして、君のおぼえている「トートラインヒッチ」は、まちがってないだろうか？
これを機会に正しい「トートラインヒッチ」の結び方をマスターしてみよう。

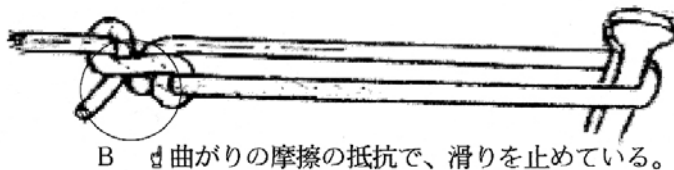
解説 by ロープの達人M

トートラインヒッチ

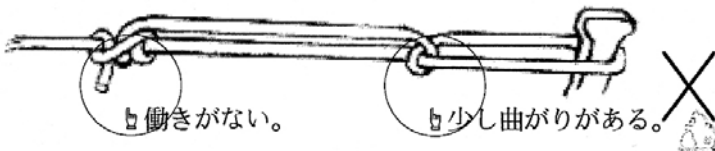
A部はテント張り綱のライナー



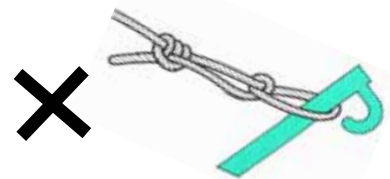
B部はA部と同じ働きをしている(トートラインヒッチ)



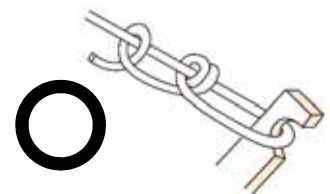
大部分の本がこれで載せてあり、実用的でない。



(ロープ)



某ロープの結び方の本に記載されているもの。
まちがった結び方をしている。



ボーイスカウトハンドブックに記載されているもの。
正しい結び方になっている。

上の解説でお解かりいただけたでしょうか？ 実際に使ってみると一目瞭然で、ロープを張ったり緩めたりするときに、まちがった方法だと手間がかかってしまい、たとえば雨の中で食堂フライをより強く張ろうとしたときにずぶぬれになってしまった経験がある。
まちがった方は一見強そうに見えるが、実は手前の一重のほうでしか抵抗がないので、実際には強度もないのである。

目次	
県ベンチャースカウト大会	2
活動の安全について	3
足尾の山に木を植えよう	3
WB研修所 VS 課程	4
西・東 指導者講習会	4
西部地区スカウトスクール	4
団 G-man	5

平成15年度栃木ベンチャースカウト大会

本年度は例年の3月の第4週から、1週早く第3週の開催となった。まだ公立高が春休みに入っていない時期からか、我々が考えていたより思いのほか参加スカウトが少なく、宇都宮1団2名のスカウトのみの大会スタートであった。



3月19日は座標ハイクからの大会スタートであるが、さすがによく訓練されたスカウト。問題なく課題をこなし、無事烏山町の県連盟野営場に到着した。

午後より天候も冷たい雨に変わり、暗くなってからは、かなりの冷え込み。急遽予定を変更し温泉に浸からせ、暖かくして寝袋に入ってもらった。しかし夜はだいぶ冷え込みがきつかったようである。

翌日、途中から多くのスカウトの参加を得、スカウト10名・指導者18名の人員。予定通りのプログラムの進行となった午前中の「そば打ち体験」のあたりから雨が雪に変わり、ざるそばより暖かいそばを食べたいところだが、スタッフ製作のカレーそばの試食は、食べるまでは、「邪道だ」「正統ではない」などとの意見が多かったが意外に大好評。こんどは自分で作ってみよう。

午後の降雪の中での竹めし・ツイスト・縛材は初体験のスカウトが多いので貴重な体験になったのではないだろうか？

いよいよ周りが暗くなってからは、毎回好評のブランドハイクの実施、烏山というのはこのプログラムを開催するのに、絶好の環境にあり、低い山が多く、周りに目印になるような物がなく、そんな所に目隠しをされ地図しか持たされず、見ず知らずの所に降ろされたら、かなりのプレッシャーだったろう。予想通り4班に編成してのスタートで予定帰営時間までに戻ってきたのは1班のみだった。大会常連のTスカウトは「高尾さん、簡単でした。」・・・ムッとする私、来年はもっと難しくしてやるぞ。

21日は前日までとはうって変わって朝からの晴天。気温も段々と暖かくなりはじめた。きっと神が彼らのガンバリに答えて晴天をくれたのだろう。

今回の参加スカウトは物事には常に裏と表があり、裏を体験したからこそ表を知る事ができ、その事に「感謝する」大切さを自ら体得したのである。

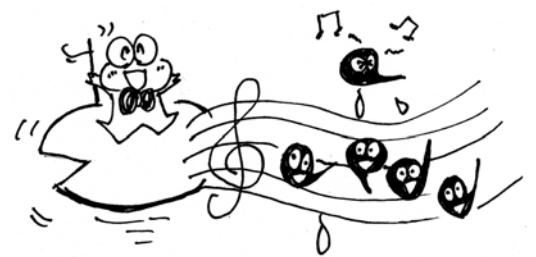
21日のプログラムの竹トンボ作りでは、大桶公園に移動し、指導者・スカウトともはかなり熱中、満足いく飛び方になるまで大騒ぎだったようだ。

ベンチャー大会には毎年ほぼ決まった団が参加してくるが、本年度は安蘇1団が初めて参加してくれた。来年度以降も新しい団の参加を期待しています。

主催者としては、反省の多い大会ではあったが、先ほどの安蘇1団の初参加や、過去にスカウトとして参加していた者が指導者となり、今大会の活動チーム員として参加してくれたり、少しずつだが今大会が栃木県連に根づいていっているようです。

最後に閉会式での「参加者の感想」で簡単だったといったTスカウトの一言「いつも楽なキャンプをしているので、たまにはこういう厳しいキャンプもよかった」とのあいさつ。普段のキャンプとはおそらく普通のキャンプをしているのだろうけど、それが「楽なキャンプ」との表現になった事に我々指導者全員が喜びを感じた一言ではなかつたらうか。

県プログラム委員長 高尾 一



活動の安全（苦い話）

スカウト活動にとって、最も重要なことは「安全」だと思います。安全に集会が終わることを我々リーダーは考え、願っていることなのでしょう。楽しいプログラムを行おうとすると、背中合わせに危ない行為が付きまとう。危険のないプログラムは、子どもたちにはつまらないようです。子どもたちは冒険が大好きです。その中には危険なことがたくさんあります。私の最も苦い経験を思い出しましょう。

私がリーダーになりたてのころは、危険なことも平気で行っていました。鹿沼市に「岩山」があります。三番岩、二番岩、一番岩とだんだん険しくなっていく岩だらけの山です。私の団は、岩山も活動の場でした。普段は、三番岩から登り始め、二番岩と一番岩の谷の部分より山を降りるコースです。その日のプログラムは、「一番岩に挑戦」ということで、一番岩から登りだしました。少し登ると鉄の鎖が現れます。鎖は4本からなり、頂上へとつながっています。そんなコースを私と副長、シニア3人、カブスカウト12人でチャレンジが始まりました。鎖の

途中（鎖の中継点）にシニアが1人ずつ付き、頂上には副長が待ち、私は一番後ろからという順に登らせました。普段よりすばしこいスカウトは、難なく頂上へ、8人が登りきったとき、二段目の鎖を登っていたスカウトがもう登れないと言い出しました。私はそのスカウトのところに手を放すなど声をかけながら登っていくと、そのスカウトは鎖を持つ手が耐え切れなくなり、放してしまい、上からスカウトが滑り落ちてきました。私はとっさに横跳びしました。運良く私の出したヒザにスカウトの足がスッポリ入りました。助かった。かすりキズで済んだものの、一時はどうなるか、最悪は……そんな苦い経験をしました。

今考えれば、「計画的ではなかった」「いつもいっている山だから」「無理なガムシャラな行動」「若さゆえの発想」こんなところがありましたね、反省しました。

今では、どこへ行くにも下見をする、計画を立ててリーダー集会で話し合う、多くのリーダーの参加、リーダーの分担等心掛けて活動を行っています。

以上私の経験、体験談でした。

ご安全に！

（西部地区プログラム委員長 吉澤 徹）

足尾の山に100万本の木を植えよう！

4月25日（日）好天に恵まれた足尾の山で、作家の立松和平氏はじめ総勢800名の参加者のもと、「足尾に緑を育てる会」主催の春の植樹デーが開催されました。

スカウト関係では、西部地区の団を中心に、スカウト40名・指導者10名が参加し、土を運び、苗木を植えるという作業に汗を流しました。



WB研修所V S 課程 栃木第3期

5月1日(土)～4日(火)に烏山町栃木県連盟野営場で相馬啓二所長のもと、ウッドバッジ研修所ベンチャースカウト課程栃木第3期が開催されました。

参加者は神奈川県からの1名を含めた12名で、3泊4日の研修をこなしてきました。各々の団に戻り研修の成果を活かし、今後ますますの活躍を期待します。



西部地区指導者講習会

3月7日(日)に今市中央コミュニティーセンター会議室で主任講師 白澤嘉宏氏のもと、西部地区の指導者講習会が行われました。

参加された9名の方々は、皆さん真剣に耳を傾け取り組んでいました。今後の活躍を期待します。



東部地区指導者講習会

4月18日(日)には、県連事務局講義室にて主任講師に押田好雄氏を迎え、東部地区の指導者講習会が行われました。参加者は9名で、西部地区同様熱心に受講していました。今後の活躍を期待します。



西部地区スカウトスクール

3月14日(日)、鹿沼1団スカウトハウスと富士山公園において、西部地区のスカウトスクールが開催されました。51名のスカウト達が、それぞれの班ごとに、

- ① 火の取り扱い(マッチ2本での火起こし・消火)
- ② ロープ結び(巻き結び・腰掛け結び・ノットボード作り)
- ③ 救護(急造担架・三角巾・骨折時の処置)
- ④ 計測(歩測・簡易測量・スカウトペース・目分量)
- ⑤ 通信(手旗・追跡サイン・追跡ハイク)

の5つの課目にチャレンジしました。参加したスカウト全員が、自隊での活動の成果を発揮しようと一生懸命に取り組んでいました。

西部地区プログラム委員長 吉沢 徹



団G-man

“合掌礼拝”と“感謝”の心を忘れずに 宇都宮第17団

昭和53年5月28日、宇都宮市築瀬町に宇都宮第17団が発団してから、おかげさまで今年で26年目を迎えることとなります。

当時はボーイ隊のみの発足でしたが、今ではベンチャー隊、ボーイ隊、カブ隊、ビーバー隊の4隊となり、毎週元気な声を聞くことができます。

当団は、創始者B・Pの志を継承するスカウト運動は勿論のこと、仏教の教えを取り入れた訓練も行っておりま



す。特に、生活の基本（神仏を敬うこと、感謝の心をもつこと、挨拶の励行、靴をそろえる、椅子は引いておく等々）にはじまり、毎年恒例の鬼怒川クリーン作戦、ユニセフ募金、赤い羽根共同募金、歳末助け合い募金など、青少年育成や地域社会のみならず、世界の平和を願った独自の奉仕活動も行っています。

また、昨年の暮れには訓練場を整備し、垣根の植樹もおこなわれました。この春には、その枝から小さな芽も見えはじめ、一段と訓練場らしくなっていました。



今年は、育成会のご配慮のもと、各隊のネッカチーフカラーを基本とした団・隊オリジナルの旗を製作しました。これからのキャンプでは、この旗のもとで楽しいキャンプが行なわれることでしょう。

今後も、より多くの育成会会員にスカウト運動をより深く理解していただくとともに、県連の関係者をはじめ各地区の皆様、各団リーダーの皆様のご指導を賜り、より良きプログラムの作成、より良きリーダーの育成、そして自らも襟を正し、努力してゆきたいと考えております。

ボーイ隊隊長 揚石 光春

大きな輪を目指して！ 小山第4団

昭和55年11月に小山市で4番目の団として発団した我が団は、現在は細く長く活動を続けています。というのも、社会的な少子化現象、他運動への流出等で隊員が激減したからです。

ですが、小世帯には小世帯なりに、今までには無かった利点も生じています。例えば、訓育において、それぞれの隊員にマンツーマンに近い状態で丁寧に教えることができるので、ロープ結び等はとても早く覚える様になりました。又、工作など危険が伴う活動にも細かく注意が行き届くのでより安全な活動が出来ていると思います。ゲーム等にも工夫を凝らし、少人数で出来て、なおかつ楽しめる物を色々と考えてチャレンジしています。

『人数が少ない』と云う事をマイナスでは捉えていません。その分隊員一人一人が伸びやかに成長してくれば、と思っています。今はまだ、小さな輪でしかありませんが、将来はもっと大きな輪として広がる様に指導者一同頑張っています。

ビーバー隊隊長 奥山 隆雄



事務局の動き

平成16年

- 3月 6日(土) 理事会
- 3月 7日(日) 指導者講習会(西部地区)
- 3月 7日(日) 東部地区わんぱくランド(上三川)
- 3月13日(土) 県トレーニングチーム研究集会
～14日(日) (あきやま学寮)
- 3月14日(日) 西部地区スカウトスクール(鹿沼)
- 3月18日(木) 名誉会議
- 3月19日(金) 県ベンチャー大会(CCC)
～21日(日)
- 3月21日(日) 県連登録審査
- 3月25日(木) 6NV会議
- 4月13日(火) 開発委員会
- 4月16日(日) 西部地区総会
- 4月18日(日) 指導者講習会(東部地区)
- 4月24日(土) 東部地区総会
- 4月25日(日) 南部地区総会
- 4月25日(日) 北部地区総会
- 4月27日(火) 組織委員会
- 4月29日(木) プログラム委員会
- 5月 1日(土) ウッドバッジ研修所
～4日(火) VS課程 栃木第3期(CCC)



今後の予定

- 5月 8日(土) 理事会
- 5月 9日(日) わくわく夢体験の船実行委員会
- 5月15日(土) 全国年次会議(名古屋)
- 5月30日(日) 県連年次総会(佐野市)



作:をかもと

発行責任者 日本ボーイスカウト栃木県連盟理事長 森山一政 / 編集責任者 組織委員会委員長理事 黒崎博孝 発行部数 2500部

日本ボーイスカウト栃木県連盟 機関紙

320-0043
 栃木県宇都宮市桜四丁目2番2号
 電話 028(621)9800
 Fax 028(621)9800
 Email bstochig@m14.alpha-net.ne.jp

ホームページもぜひ見てください。
<http://ex.as.lancenet.or.jp/bstotigi/>



「男体」は地球環境にやさしい大豆を原料としたインク(SOY INK)を使用しています。